

大茅スキー場エリア再整備事業の現状と今後の村の取組について

令和3年度から取り組んできた「大茅スキー場エリア再整備事業」の状況について改めてお知らせをさせていただきます。

「大茅スキー場エリア再整備事業」は、村にとってさまざまな効果が期待される事業としてその取り組みがスタートしました。

経済面では、初年度に年間約2万人の新規観光客と約7千万円の宿泊関連収入増が見込まれ、開業3年後には年間2億2千3百万円の間接効果が予測され、雇用面では、直接雇用20人を含む約30人の新しい雇用を生み出すことが見込まれています。

大茅スキー場エリアだけの効果ではありません。皆さんが野菜を販売する道の駅をはじめ、村の中の飲食店や宿泊施設、商店などにも大きな波及効果があります。

また、村の魅力が向上することで、村の若い人や子育て世代が村に住み続け、外から人を呼び込むことにも貢献が期待されます。

今回整備が予定されているスケートボードトラックやキャンプ場などは他の市町村にはない特徴的な施設のため、大人だけでなく、子どもたちも新しいスポーツに触れ、健康で健全な成長を遂げ、村への愛着を育む教育効果も期待されます。

大事業であるため、財政的な危惧が懸念されるところですが、本事業の必要な資金については、国の交付金やカヤック社との連携により、資金や人材、ノウハウの提供が予定されており、村の負担を最小限にしながら、地域にたくさんの産業が生まれ、新しい価値が作られることが見込まれています。

この事業については、これまでの議会において否決という判断が下されましたが、その背景には、事業開始から今日に至るまで、私自身による村民の皆さまへの説明が十分に行き届いていなかったことがあると、私は真摯に反省しお詫び申し上げます。

このような状況において、村としては何とか事業実施の可能性を探っているところですが、7月15日に「大茅スキー場エリア再整備事業」の実施主体である株式会社カヤックより、「本事業が8月末までに予算化されない場合には、当事業から撤退する意向である」との正式な通知を受け取っております。この期限を超えると、計画全体の見直しを余儀なくされるだけでなく、これまで積み重ねてきた協議や準備も無に帰す可能性があります。加えてそのことは、勇気と希望をもって地方で事業を起こそうとする企業や人材がもうこの村には関われないという誤ったイメージを対外的に発信し、村に企業や事業を誘致できなくなる可能性があります。また、これまで村で挑戦してきた人たちが将来への希望を失い、村を離れていくことにもなりかねないと思っています。

そのことが、合併を選ばずに今日まで頑張ってきた村の未来を大きく毀損することにつながると、私は強く憂慮しています。

現在、有志による「大茅スキー場エリア再整備事業の実現を求める請願書」に対する署名活動が行われていることを承知しております。この活動は、西栗倉村の若者たちを中心に発意・展開されているものであり、私はその姿勢に深い敬意を抱くとともに、今後、どのような民意が示されるかを注視しています。

署名活動によって、一定の数の村民の皆さまから明確な意思が示された場合には、それ自体が再審議を検討するに足る十分な根拠であると、私は考えています。署名活動の状況を見極めたうえで、必要と判断した場合には、改善を反映した修正案をもって、議会に対して本事業の再審議を要請したいと考えています。

村民の皆さまの一定の数の署名によって明確な意思が示され、決断の期限を考慮した上で、村長として本事業が村の未来に不可欠であると判断すれば、資金調達、人材の確保など私のリーダーシップのもと責任をもって、実現し、強い覚悟でこの事業を実現、成功させます。

私は西栗倉村が「挑戦を応援する村」であり続けることを、そして村民一人ひとりが自らの意志で未来を拓いていける村であり続けることを、決して諦めません。この思いを胸に、これからも皆さまのご意見を伺いながら誠実かつ責任ある村政運営に議会とともに取り組んでまいります。

村民の皆さまには是非とも「大茅スキー場エリア再整備事業」の実現にご協力をお願いいたします。

令和7年8月4日

西栗倉村長